



14年分民間平均給与は2年連続増加 平均給料は横ばいも賞与が押し上げ

2014年1年間を通して民間企業に勤めた給与所得者の平均給与は415万円で、前年に比べ0.3%（1万4千円）増加したことが、国税庁が発表した2014年分民間給与実態統計調査で分かった。平均給与は2年連続の増加。調査は、全国の約2万1千事業所、約29万9千人の数値をもとに推計したもの。

調査結果によると、2014年12月31日現在の給与所得者数は、前年に比べ1.0%増加の5592万3千人だった。そのうち、1年を通じて勤務した給与所得者数は、前年比2.4%増の4756万3千人（正規3104万1千人、非正規1090万2千人）で過去最多を更新した。

その平均給与415万円の内訳は、平均給料・手当が同▲0.0%の352万6千円とほぼ横ばいだったのに対し、賞与は同2.6%増の62万5千円と平均給与を押し上げた。

男女別の平均給与は、男性（平均年齢45.4歳、平均勤続年数13.4年）が前年比0.6%増の514万4千円、女性（同45.6歳、9.9年）が同0.3%増の272万2千円。正規、非正規別にみると、1人当たりの平均給与は、正規が同1.0%増の477万7千円（男性532万3千円、女性359万3千円）、非正規は同1.1%増の169万7千円（男性222万円、女性147万5千円）とともに増えた。

平均給与を業種別にみると、「電気・ガス・熱供給・水道業」が655万円と最も高く、最も低いのは「宿泊業、飲食サービス業」の237万円だった。